

●本リリースは、下記の記者クラブ・記者会へ配信しています。

京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

NEWS RELEASE



2021.10.22 <計2枚>

報道関係者 各位

立命館大学広報課

立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 第4期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラムの研究プロジェクトを採択

立命館グローバル・イノベーション研究機構 (Ritsumeikan Global Innovation Research Organization, 以下、R-GIRO)は、2022年4月より研究活動を開始する第4期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム「地球共生型社会実現に向けた研究」の研究プロジェクトとして5件を採択いたしました。

採択プロジェクトの概要

拠点区分※	プロジェクト名／プロジェクトリーダー	
I	プロジェクト名	「物質の時空間制御を実現する有機資源の有効利用」
	プロジェクトリーダー	生命科学部・教授 前田大光
I	プロジェクト名	「カーボンニュートラル実現へ向けた高効率エネルギー利用技術創成拠点」
	プロジェクトリーダー	生命科学部・教授 折笠有基
II	プロジェクト名	「人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリエンス強化のための学際的研究拠点」
	プロジェクトリーダー	先端総合学術研究科・教授 小川さやか
III	プロジェクト名	「プレジジョンヘルスケアの社会浸透を推進するための総合知活用型研究拠点形成」
	プロジェクトリーダー	スポーツ健康科学部・教授 家光素行
III	プロジェクト名	「記号創発システム科学創成:実世界人工知能と次世代共生社会の学術融合研究拠点」
	プロジェクトリーダー	情報理工学部・教授 谷口忠大

※<拠点I:地球の自然環境の復元、拠点II:自然災害の克服、拠点III:生産年齢人口減の克服>

R-GIRO は、学長直轄の研究組織です。「持続可能な社会形成のために解決すべき課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成」を目的に2008年4月に設立しました。既存組織を横断して文理融合を牽引し、学際的研究活動を促進することで価値ある研究成果を創出しています。

2021年度からスタートした第4期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラムは、「地球共生型社会実現へ向けた研究」をプログラムの共通理念とし、現在、6つのプロジェクトが研究を開始しています。この度、新たに5つのプロジェクトを採択し、第4期は全11の研究プロジェクトが活動することになります。

2008年の第1期から築いてきた R-GIRO の活動をさらに発展させ、今後も社会課題の解決に向け、邁進してまいります。

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 中嶋 TEL. 075-813-8300

<別紙>採択プロジェクトの詳細

<拠点I>

プロジェクト名:「物質の時空間制御を実現する有機資源の有効利用」

プロジェクトリーダー:生命科学部・教授 前田大光

申請の概要:

新しい機能を持ち制御可能な物質を有機資源(化石資源等)から創成することを目的とした研究課題であり、現在の環境破壊の克服を見据え、材料開発の面から地球共生型破壊モデルの構築を目指す研究である。新規π電子系化合物の合成技術の開発を研究の基盤とし、新規デバイスの提案、物質・材料の創製を目指している。広く国内外との研究者との連携や、その一環としての若手研究者の育成も予定されている。

<拠点I>

プロジェクト名:「カーボンニュートラル実現へ向けた高効率エネルギー利用技術創成拠点」

プロジェクトリーダー:生命科学部・教授 折笠有基

申請の概要:

2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略で目標とされる温室効果ガスの削減目標を達成するエネルギー利用技術でのイノベーション創成(産業貢献)と、本分野で世界を先導する人財の育成を行う。具体的には高性能資源循環型電池システムを創製し、省エネに関わるデバイス基盤技術を向上させ、原子層材料の開発ならびに量子ビームによる反応機構を解明して、エネルギー・資源循環型社会実現のための基盤開拓を行う。

<拠点II>

プロジェクト名:「人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリエンス強化のための学際的研究拠点」

プロジェクトリーダー:先端総合学術研究科・教授 小川さやか

申請の概要:

気候温暖化や環境破壊など人類社会が岐路に立つ現代において、気候変動に伴って頻発する食糧危機や災害に対し、従来の個々の特定の学問分野に立脚した議論ではなく、種々の学問領域の研究者の協働により、環太平洋地域の環境特性とそこで育まれた独自の文明に立脚して、過去の気候変動と災害・食糧危機に関する学術的実証を行い、現代の「災害・危機対応に対する人類社会のレジリエンスの強化」のための実行力のある提言を行う。

<拠点III>

プロジェクト名:「プレジジョンヘルスケアの社会浸透を推進するための総合知活用型研究拠点形成」

プロジェクトリーダー:スポーツ健康科学部・教授 家光素行

申請の概要:

ヒトの健康維持・増進を目的とし、生体内の応答メカニズムを踏まえて、生体試料から得られる情報から、身体的・精神的な活力状況(Full of Vitality: FOV)を短期的および長期的にモニタリングして、日常および非日常における個人のライフスタイルに最適化された行動変容を促す情報のフィードバックシステムを構築し、健康へと繋げる取り組みである。プレジジョンヘルスケアの社会実装を目指す研究拠点を形成する。

<拠点III>

プロジェクト名:「記号創発システム科学創成:実世界人工知能と次世代共生社会の学術融合研究拠点」

プロジェクトリーダー:情報理工学部・教授 谷口忠大

申請の概要:

新たな学術融合分野である「記号創発システム科学」を創成することで、人間を含んだ実世界において他者と相互作用しながら知識を獲得しコミュニケーションする実世界人工知能(サービスロボット)の開発とAI/DX活用によるカウンセリングや語学教育の高度化によりダイバーシティ社会に貢献する次世代共生社会のデザインを研究目的とする提案である。